

和解をもたらす人づくり

平和と和解のためのファシリテーター養成セミナー

「シラバス（プログラム案内）」（第2期：特別版）

○テーマ

和解をもたらす人づくり～新型コロナウイルスによる分断から和解へ～

○目的

新型コロナウイルス感染拡大と長期化で外出自粛とステイホームが求められる中、食料品やマスクの買占め、家庭内暴力、コロナ離婚の増加、感染者や医療従事者への差別と偏見、営業自粛による失業や倒産、社会的距離を保つことによる孤独や感染症への恐れなど、様々な問題が指摘されている。これらの問題は、感染症の蔓延によって生じたものばかりではなく、非常時であるからこそ今まで隠されていた問題が浮き彫りになったと思われる。このセミナーでは、このような利己主義、偏見、不安や葛藤、対立、分断に対し、排除や暴力（精神的暴力も含む）によって問題を解決するのではなく、自分や他者の心に寄り添いながら、傾聴や対話による問題解決、対立変容をはかるスキルをオンラインで学ぶことを主眼とする。また、共に生きる社会のあり方を考え、いのちの尊厳や靈性に重きを置く和解への導き方をセミナーで学ぶ。新型コロナウイルスが終息したとしても、私たちの生活や社会は確実に変化していくであろう。変容する社会にどのように向き合って生きていくのか。これまでの自分たちの生き方を見つめなおし、今後の社会のあり方について考える。さらに、社会のオンライン化が進む中で、積極的に平和創造の行動を生み出すファシリテーターを育てることを目的とする。

○到達目標

- ・新型コロナウイルスによる分断の状況を理解し、和解へ導くスキルを学ぶことができる
- ・自分や他者に寄り添うことを学ぶことができる
- ・対立の特性と概念について学び、対立から和解に至るプロセスと必要な要素について理解することができる
- ・実社会での暴力やオンライン上での言葉の暴力も含め、力による解決方法ではなく、非暴力にもとづく対立解決方法を理解することができる
- ・異なる意見や見方を受容し、傾聴と対話のスキルを身に付けることができる
- ・メディアーター（仲介者）としての基礎を学ぶことができる
- ・ワークショップを立案し、ファシリテーターとして実践ができる
- ・諸問題について学び、自ら考え、行動できる
- ・オンラインでも対応できるファシリテーターを育てる
- ・オプション：国際的視野を持ち、時代の流れと現代における要請を理解することができる

- 対象者
「和解」「平和構築」「ファシリテーション」に関心があり、実践したいと考えている宗教者、青年、大学生（院生）、NGO 関係者等どなたでも。
- キーワード（コアコンセプト）
平和、諸宗教、多様性、和解、共生、傾聴、対話、修復的正義¹、自己理解、つながり、関係性、メディエーション（仲介）、新型コロナウイルス、対立、分断、暴力、オンライン
- セミナーの手法
インターネットを使ったオンライン会議システム（Zoom）で講義と演習、受講生による討論を組み合わせた双方向学習（アクティブ・ラーニング）。さまざまな分野で活躍されている講師をお招きし、実際のトレーニングや学習を行う。また、ロールプレイングや実演を通じた体験学習を行い、各回の前後で課題に取り組み、学びを深める。
- 講師
和解・平和学の講座を持つ大学機関や、和解や平和問題に取り組む国内外の宗教者、宗教団体、学者、NGO 等と連携し、ゲスト講師を迎える。
- セミナー期間
2020年7月～2021年4月（+オプションル時期）
- 修了課題
セミナー終了時には、「MYアクションプラン」としてワークショップの企画、立案を行う。
- 修了証の授与
4回以上参加した人（全セミナーの3分の2以上出席した人）に、修了証が授与される。
- セミナー内容 （敬称略）

回数	月日	授業テーマ
2020年度		
1	7月 11日（土）～ 12日（日）	「心をむける」 目的：自分に向き合い、他者に心をむける 目標： ① 平和の定義やインナーピース（内なる平和）について理解する

¹ 修復的正義は Restorative Justice の日本語訳で、修復的司法とも呼ばれる。修復的正義は、西洋に由来する司法制度と司法正義が、被害者、加害者、コミュニティの人々のニーズに十分に答えていない、もしくは司法プロセスが和解や平和ではなく社会的損傷や対立を深める場合があるという課題を超えようとする試みのことを指し、「不正義に対しての、非暴力的な平和手段による解決への取り組み」ともいわれる（ハワード・ゼア,2008）

		<p>② 新型コロナウイルス拡散により心の中で起ってくる様々な不安や思いに心をむける</p> <p>③ 自分の内面をみつめ、自分との和解を試みる</p> <p>④ 自分や他者の心に寄り添うとはどういうことかを考える</p> <p>【講師】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・柳田敏洋（イエズス会司祭、キリスト教的ヴィパッサナー瞑想） ・キャロル・サック講師（日本福音ルーテル教会宣教師、ハーブ奏者、音楽死生学） ・山本俊正（元関西学院大学教授） ・松井ケティ（清泉女子大学教授）
2	9月 12日（土）～ 13日（日）	<p>「見方をかえる」</p> <p>目的：多様性や多文化共生を理解し、多角的に物事を見て、関係性の中で問題を捉える</p> <p>目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 多様性や多文化共生を学ぶ ② 対立の概念と特性及び和解に必要な要素を理解する ③ 修復的正義の概念について知る ④ 修復的正義の具体的な実践を学び、身近な場所で自分がどのように活かすことができるかを考える <p>【講師】（予定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松井ケティ（清泉女子大学教授） ・山本俊正（元関西学院大学教授） ・ミリアム大学の平和教育センター（フィリピン）より講師招聘など
3	11月 22日（日）～ 23日（月）	<p>「他者をうけいれる」</p> <p>目的：和解や仲介のスキルを身に付ける</p> <p>目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> ① アクティブ・リスニングについて学ぶ ② メディエーション（仲介）の概念とメディエーター（仲介者）としての基礎を学ぶ ③ 身の周りの出来事で実演（シミュレーション）を通して対立や和解を体験する <p>【講師】（予定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松井ケティ（清泉女子大学教授） ・村上泰教（石鎚山真言宗教学部長） ・国内でメディエーター（仲介者）として活動している方、またはミンダナオ・ピースビルディング・インスティテュート（MPI）より講師招聘など

4	2021年 2月 13日(土)～ 14日(日)	<p>「流れをつくる」</p> <p>目的:プログラムを策定し実施するための手段・方策を学び、実践する</p> <p>目標:</p> <p>① 新型コロナウイルスによる分断を和解へ導くオンラインワークショップの立案を行う</p> <p>② ワークショップのファシリテーションを実践する</p> <p>【講師】</p> <p>・松井ケティ (清泉女子大学教授)</p>
2021年度		
5	4月	<p>「私がおごく、和解がうまれる」</p> <p>目標:</p> <p>① 対立・分断を和解へ導く MY アクションプランを完成する</p> <p>② MY アクションプランを実践し、今後のファシリテーションに活かす</p> <p>・修了式</p> <p>【講師】</p> <p>・松井ケティ (清泉女子大学教授)</p>
オプション ※実施は、状況をみながら検討。		
1	場所:水俣 ※2泊3日	<p>「つながる／つなげる」</p> <p>目的:コミュニティの対立について学び、つながりをもたらすプロセスを担う</p> <p>目標:</p> <p>① コミュニティの対立、分断、赦しと和解について学び、自分ならどのように行動できるかを考える</p> <p>【講師】(予定)</p> <p>・石原明子 (熊本大学准教授) 他</p> <p>【フィールドワーク】</p> <p>・水俣市内 (水俣病資料館、チッソ工場等)</p>
2	場所:韓国 ※3泊4日	<p>「外へふみだす」</p> <p>目的:市民の力と和解の取り組みを現場で学び、諸宗教で取り組む意義と役割を考える</p> <p>【講師】(予定)</p> <p>・韓国宗教人平和会議 (KCRP)</p> <p>・東北アジア平和構築インスティテュート (NARPI)</p> <p>【フィールドワーク】</p> <p>・韓国の取り組み現場</p>